

授 業 概 要

(科目名)		授業の種類	授業担当者		
アクティビティケア (音楽療法 5コマ)		演習	三浦 優佳		教員経験
					有
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験	
5	単位	1	選択	有	

[授業の目的・ねらい]

高齢者領域における音楽療法について知り、対象者のニーズや状態に合わせて音楽を活用する視点やその方法を学ぶ。また、実際に仮の対象者を想定し、それに合わせた歌を学んだり、音楽活動を考え学生同士提供し合ったりする。対象者のニーズや状態を考慮し音楽活動を検討することで対象者への理解を深めると共に、対象者と一緒に音楽を楽しみ寄り添う一手段として音楽を活かす姿勢を培う。

[授業全体の内容の概要]

原則、毎授業にて講義と体験・演習の時間を設ける。

講義：高齢者を対象とした音楽療法について、対象者の特性やそれに対応する音楽の使用について紹介する。

演習：実際に高齢者が過ごした時代の音楽や様々なテーマの音楽について調べたり紹介したりする。講義の中で紹介した曲や活動を模擬体験したり、学生が自ら活動を考えて発表したりする。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

高齢者への音楽の活用について自分なりの考えを持つことができる。

対象者のニーズや状態を考慮しながら音楽活動を考えようとする事ができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	音楽療法（1） 音楽活動のメリット：歌うことの意味 (口腔・嚥下機能へのアプローチ、心身機能へのアプローチ)
2	音楽療法（2） 音楽活動のメリット：集団で行うことの意味 (時間軸でつながる、コミュニティーとつながる、家族とつながる ほか)
3	音楽療法（3） 「歌う」以外の方法での音楽活動 (認知機能：クイズ、口腔・嚥下・呼吸・発声：ハミング、運動機能 ほか)
4	音楽療法（4） 音楽を使った体操の体験 (動作を誘発する音楽／音楽の持つリズム、テンポ ほか)
5	音楽療法（5） まとめとレポート、発表
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

[使用テキスト・参考文献]

テキストは指定しない。各回プリントを配付する。参考文献は以下の3点。
 ①二俣泉、白川ゆう子、三浦優佳著（2019）音楽療法をまなぶ 新訂増補版 アカデミアミュージック株式会社
 ②高橋多喜子著（2017）補完・代替医療 音楽療法 改訂3版 金芳堂
 ③菅田文子著（2009）音楽療法の必須100曲 高齢者編

[単位認定の方法及び基準]

出席、小テスト（レポート）、試験、成果発表

(試験やレポートの評価基準など)

授 業 概 要

(科目名)		授業の種類	授業担当者		
日本語 補講			久保田 真智子		教員経験 6
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験	
30	2 単位	1, 2年	選択	6	

[授業の目的・ねらい]

- N2合格 (日本語能力試験)
- 国家試験合格のための日本語理解力の向上

[授業全体の内容の概要]

- 文法(N2)、語彙、会話、漢字の4本柱を中心に進捗。
- 日本語能力試験前は、対策としてドリル等の問題もこなしていく。

[授業修了時の達成課題 (到達目標)]

- N2合格
- 国家試験合格

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	新完全マスター-文法N2/日本語総社め N2語彙/日本語生中継(会話)
2	介護・看護の漢字とことば
3	"
4	"
5	"
6	"
7	"
8	"
9	"
10	"
11	"
12	"
13	"
14	"
15	"

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

授業内に実施する数回のミニテスト

(試験やレポートの評価基準など)

授 業 概 要

(科目名)		授業の種類		授業担当者	
情報処理(基礎)		演習		添田たか子	
				教員経験	
				○	
授業の回数	(単位数)※	配当学年		必修・選択	実務経験
15	2 単位	1		必修	○

[授業の目的・ねらい]

パソコン操作には必要な入力の基礎(タッチタイピング)をマスターし、仕事で活かせる丁寧なタイピングとわかりやすい文書作成を目指します。

[授業全体の内容の概要]

タッチタイピング(指使いの説明)から始まり、文字入力→文章打ち→文書作成の練習をします。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

日本情報処理検定協会主催「日本語ワープロ検定準2級・3級」を目指します。(任意受験)

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

毎回提出される課題を採点・返却することにより、操作を確実にしていきます。

コマ数	内 容
1	パソコン操作、タッチタイピング(基本)
2	タッチタイピング
3	ファンクションキー・記号練習(短文練習)・長文練習
4	通信文書1, 2(体裁を整える)
5	通信文書3, 4(フォント、文字飾り、あいさつ文)
6	通信文書5, 6(段落記号)
7	通信文書7, 8(ルビ、均等割付)
8	通信文書9, 10(まとめ)
9	罫線練習1(表作成)
10	罫線練習2(表作成)
11	通信罫線練習
12	通信罫線練習
13	通信罫線練習
14	通信罫線練習
15	期末テスト

[使用テキスト・参考文献]

自作テキスト
日本語ワープロ検定準2・3級問題集

[単位認定の方法及び基準]

出席状況・課題提出・試験結果で総合的に判断します。

(試験やレポートの評価基準など)

100点満点で採点します。

授 業 概 要

(科目名)		授業の種類	授業担当者		
こころとからだのしくみⅠ			保倉 愛結		教員経験 有
授業の回数	(単位数) ※	配当学年		必修・選択	実務経験
8	単位	1学年			有

【授業の目的・ねらい】

人体の構造と機能、こころの仕組みについて理解し、これに基づいた根拠ある生活支援が展開・実践できるようになる。また心身の状況がどのような要因から生じているのかを客観的に理解し、残存能力・潜在能力を引き出し、尊厳ある適切な介護方法を導き出す。

【授業全体の内容の概要】

人体の構造や機能についての知識や影響する老化・疾病・障害について学ぶ。またこころとからだのしくみが関連付けてイメージしとらえられるように、映像や図を使い理解していく。演習も行う。

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

介護実践・展開に必要な観察力、判断力の基盤となるこころとからだの仕組みを理解する。人体に影響する老化・疾病・障害・心の健康について理解する。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数	内 容	
1	オリエンテーション こころとからだのしくみを学ぶ目的 「健康」とは何か	
2	第2章 からだのしくみを理解する	第1節 からだのしくみ ①細胞・遺伝
3	第2章 からだのしくみを理解する	第1節 からだのしくみ ②身体各部 ⑤内臓の名称
4	第2章 からだのしくみを理解する	第1節 からだのしくみ ③脳・神経系
5	第2章 からだのしくみを理解する	第1節 からだのしくみ ④感覚器
6	第2章 からだのしくみを理解する	第1節 からだのしくみ ⑥呼吸器
7	第2章 からだのしくみを理解する	第1節 からだのしくみ ⑦循環器
8	科目終了試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

【使用テキスト・参考文献】

【単位認定の方法及び基準】

(試験やレポートの評価基準など)

2021年度 介護福祉科
授 業 概 要

科目名		授業の種類		授業担当者	教員経験・実務経験
実習事前指導（サービス演習）		講義・演習		山本 久美	あり
授業の回数	時間数(単位数)	学年	時期	必修・選択	
8回		1年	前期		
<p>[授業の目的・ねらい] 実習に入る前に社会人として必要とされるビジネスマナー、状況や場に合った立居振舞いの基本を確認し適切な行動がとれるようにする。また実習の場で実践する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 仕事とは“専門スキル”と“対人スキル”の両輪で成り立っていることをまず理解。職場で感じよく人間関係を作りスムーズな業務にあたるための対人スキルを現場の状況を想定して実践的に身につける。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 現場実習においてビジネスマナーを実践し、感じよくスムーズな人間関係構築が出来るようになること</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p>					
回数	内 容				
1	オリエンテーション・社会人としての“人間関係作り”とは				
2	感じの良いコミュニケーション・ビジネスマナーの基本①				
3	感じの良いコミュニケーション・ビジネスマナーの基本②				
4	実践・ケーススタディ～こんなときどうする？～				
5	電話を受ける・電話をかける				
6	訪問のマナー				
7	来客応対				
8	総合ロールプレイ				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
[使用テキスト] オリジナル資料配布			[単位認定の方法及び基準] 出席率と授業への取り組み姿勢での評価		
[参考文献]					
備考			[試験やレポートの評価基準など]		

授業概要				
(科目名)		授業の種類		授業担当者
生活支援技術 前期①		講義		小松 志保子
				教員経験 17年
授業の回数	(単位数) *	配当学年	必修・選択	実務経験
15	30 単位	1年	必修	25年
<p>[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする人がどのような状態であっても、その人を尊重し、自立した「生活」を支えるための専門職としての介護の知識・基本的技術を習得する</p> <p>[授業全体の内容の概要] 各單元ごとに①講義（専門的知識の習得）、②介護技術（介助方法—観察・コミュニケーション・手順等）の演習、③記録（振り返り）の形式にて授業を展開</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）] 人間にとって生活とは何かを考え理解し、対象者の人生観を尊重した介助が実践できるようになる。「根拠」の基づいた基本的介護技術の習得</p> <p>[授業の日程と各界のテーマ・内容・授業方法]</p>				
コマ数	内 容			
1	オリエンテーション（授業の進め方・身だしなみ・演習室の使い方）			
2	環境整備・ベッドメイキング			
3	生活支援技術の基本原則、麻痺・体位			
4	単元テスト ベッドメイキング			
5	移動の介護 意義と目的、ボディメカニクス、体位変換			
6	移動の介護 介護技術（仰臥位から端座位、端座位から立位）			
7	移動の介護 車いす移乗・移動			
8	移動の介護 介護技術（歩行介助）、まとめ			
9	身支度の介護 意義と目的、衣服の着脱（座位）			
10	身支度の介護 衣服の着脱（臥床時の介助、靴下・靴の介助）			
11	食事の介護 意義と目的、食事介護の方法			
12	食事介護 口腔ケア①			
13	前期まとめ、実技テスト事例検討			
14	実技テスト			
15	筆記テスト・筆記試験の振り返り			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]		
最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ（中央法規）		筆記試験・実技試験総合 含：課題提出・演習時の参加度等		
最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ（中央法規）		(試験やレポートの評価基準など)		
		筆記試験 50% 実技試験 50%		

授 業 概 要

14学期

(科目名)		授業の種類	授業担当者		
認知症の理解Ⅰ		講義	利根川都子		教員経験 20年
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験	
15回	2 単位	1年生	必修	7年	

[授業の目的・ねらい]
認知症の基礎知識を習得し、認知症の人に対する適切な全人的なケアを学ぶ

[授業全体の内容の概要]
4大認知症の定義と特徴
中核症状とBPSD
若年性認知症の特徴
認知症の人へのケアの基本

- [授業修了時の達成課題（到達目標）]
1. 4大認知症の理解が出来る
 2. 中核症状とBPSDの理解が出来る
 3. 若年性認知症の人の理解が出来る
 4. 認知症の人へのケアの基本を実践出来る

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

講義・グループワーク・レポート

コマ数	内 容
1	オリエンテーション 認知症の人との関わり
2	脳のしくみ
3	認知症の定義 中核症状
4	中核症状
5	BPSD
6	BPSDのケア
7	アルツハイマー型認知症
8	アルツハイマー型認知症のケア
9	血管性認知症
10	血管性認知症のケア
11	レビー小体型認知症とケア
12	前頭側頭型認知症とケア
13	若年性認知症とケア
14	治る認知症
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

最新・介護福祉士養成講座13「認知症の理解」	小テスト・レポート
	(試験やレポートの評価基準など)
	小テスト・レポート・授業態度により総合的に評価する

授 業 概 要

後期

(科目名)		授業の種類	授業担当者		
情報処理 (応用)		演習	添田たか子		教員経験
					○
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験	
15	2 単位	1	必修	○	

[授業の目的・ねらい]

《エクセル》

エクセルの基礎 (四則計算) からグラフ操作までを練習し、仕事で活かせるデータ処理を目指します。

《パワーポイント》

効果的なプレゼンテーションを行うのに必要な操作をマスターし、わかりやすく伝えることを目指します。

[授業全体の内容の概要]

《エクセル》

四則計算から始まり、関数 (RANK, ROUND, I F) とグラフ、並べ替えを練習します。

《パワーポイント》

検定過去問題を使用し、プレゼンテーション操作を練習します。

[授業修了時の達成課題 (到達目標)]

日本情報処理検定協会主催「表計算検定 3 級」「プレゼンテーション作成検定 3 級」を目指します。(任意受験)

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

毎回提出される課題を採点・返却することにより、操作を確実にしていきます。

コマ数	内 容
1	入力、セル操作、四則計算
2	Σ (オートSum) から合計・平均の練習
3	比率 (絶対参照) の練習
4	RANK関数の練習
5	ROUND関数の練習
6	ROUNDDOWN, ROUNDUP関数の練習
7	I F関数の練習
8	グラフ作成の練習
9	並べ替えの練習
10	パワーポイント練習
11	パワーポイント練習
12	パワーポイント練習
13	テスト練習 1
14	テスト練習 2
15	期末テスト

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

自作テキスト 表計算 3・4 級検定問題集 プレゼンテーション作成 3・4 級検定問題集	出席状況・課題提出・試験結果で総合的に判断します。
	(試験やレポートの評価基準など)
	100 点満点で採点します。

21-02-16:16:16

F 4/3

授業概要

(科目名)		授業の種類		授業担当者	
レクリエーション理論 活動援助法		レクリエーション		新戸 由美	
授業の回数 (単位数) ※		配当学年		必修・選択	
5 15		単位 介護福祉科K12 5コマ 子ども総合科			
<p>[授業の目的・ねらい] 少子高齢社会においてレクリエーション・インストラクターはレクリエーションの「市民サービス業」を推進する人材として期待されている。 21世紀レク運動の役割、レク支援、展開方法を中心におきながらインストラクターを育てる</p> <p>[授業全体の内容の概要] レクとは何か。 レク支援、理念 レクインストラクター育成 楽しさを通じた心の元気づくり</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p>					
[授業の目録と各回のテーマ・内容・授業方法]					
回数	内 容				
1	レクリエーションを体験してもらう。				
2	レクとは何か。レクの意味とレク運動の歴史を学ぶ。				
3	レク概論①レク支援の目標 ②レクインストラクターの役割				
4	楽しさとおしの元気づくりの理論、現代社会の課題や問題				
5	楽しさとおしの元気づくりの理論 元気づくりに活かす2つの視点				
6	" ② 子どもや高齢者の心の元気づくり				
7	" ④ 心の元気と地域のきずなづくり				
8	レク支援の理論：コミュニケーションと信頼関係づくりの理論/対象者との信頼関係				
9	" : 良好な集団づくりの理論				
10	" : 自主的・主体的に楽しむ力を育む				
11	" : 信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ				
12	" : 良好な集団づくりの方法・アイスブレイキング				
13	" : 自主的・主体的に楽しむ力を育むレク活動の展開法				
14	" : 対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術の活用方法				
15	テスト				
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
楽しさとおしの 心の元気づくり					
			(試験やレポートの評価基準など)		

授 業 概 要

(科目名)		授業の種類	授業担当者		
情報処理 (EXCEL)		演習	添田たか子		教員経験
					○
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験	
15	2 単位	2	必修	○	

[授業の目的・ねらい]

エクセルの基礎 (四則計算) からグラフ操作までを練習し、仕事で活かせるデータ処理を目指します。

[授業全体の内容の概要]

四則計算から始まり、関数 (RANK, ROUND, IF) とグラフ、並べ替えを練習します。

[授業修了時の達成課題 (到達目標)]

日本情報処理検定協会主催「表計算検定3級」を目指します。(任意受験)

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

毎回提出される課題を採点・返却することにより、操作を確実にしていきます。

コマ数	内 容
1	入力、セル操作、四則計算
2	Σ (オートSum) から合計・平均の練習
3	比率 (絶対参照) の練習
4	RANK関数の練習
5	ROUND関数の練習
6	ROUNDDOWN, ROUNDUP関数の練習
7	IF関数の練習
8	グラフ作成の練習
9	並べ替えの練習
10	パワーポイント練習
11	テスト練習 1
12	テスト練習 2
13	テスト練習 3
14	テスト練習 4
15	期末テスト

[使用テキスト・参考文献]

自作テキスト・表計算3・4級検定問題集

[単位認定の方法及び基準]

出席状況・課題提出・試験結果で総合的に判断します。

(試験やレポートの評価基準など)

100点満点で採点します。

授 業 概 要

(科目名)		授業の種類	授業担当者		
生活支援技術 IV (栄養調理)		講義： 5回 調理実習： 3回 (×2)	石川 裕子		教員経験
					無し
授業の回数	(単位数) ※	配当学年		必修・選択	実務経験
講義：5回 実習：3回	単位	介護福祉科 2年		必須	31年

[授業の目的・ねらい]

- ・家事支援の基本となる知識と技術と視点を学ぶ
- ・介護福祉士として食生活の重要性を理解し、生活支援に役立てる

[授業全体の内容の概要]

<講義> 5回

- ・食事は最も基本的な日常生活行為であり、「美味しく食事を摂る」ことは、生活を豊かにすることを理解する
- ・食生活について教科書を中心に、最新情報に関して追加資料を加え、演習を取り入れて学習する。
- ・自分自身の健康づくりにも役立つよう 栄養について学ぶ機会とする

<調理実習>

- ・調理の基本(切り方、味付け、配膳等)
- ・疾病や障害に対する調理上の配慮や工夫について、基本的な調理方法を実習する

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

- ・利用者の生活支援ができるように食生活の基礎知識を理解する
- ・食事での配慮が必要な状態、状況を踏まえて、介護支援ができる。多職種につなげる視点を持つ。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	オリエンテーション 自立に向けた家事の介護 食生活の基礎知識 食文化
2	栄養の理解 栄養素の働き 献立の立て方
3	疾病と食事 食事療法について 生活習慣病を中心に
4	配慮が必要な人への食事 摂食、嚥下機能 調理形態の配慮
5	食品の安全性 食品衛生 表示の見方 食品の選択と購入 <テスト>
6	<調理実習> 全3回 ① オリエンテーション 調理の基本 和食
7	② 洋食 食べやすくする工夫
8	③ 介護食 飲み込みやすくする工夫
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

[使用テキスト・参考文献]

最新 介護福祉士養成講座 6
生活支援技術 I

関連資料：介護福祉士養成講座 7
生活支援技術 II

介護福祉士養成講座 11
ここからだのしくみ

[単位認定の方法及び基準]

- ・出席状況
- ・授業態度
- ・授業後 課題提出
- ・テスト
- ・提出物
- ・提出物で 総合的に評価

(試験やレポートの評価基準など)

- ・講義5回目に 30分程度の試験
- ・評価基準は平均点を参考に
- ・各回にレポート提出し、次週返却(教科書演習を中心に出题)

授 業 概 要

(科目名)		授業の種類	授業担当者	
生活支援技術Ⅳ（被服）		演習	奥脇 菜那子	
			教員経験	
			有	
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
6	単位	2		無

[授業の目的・ねらい]

高齢者・障がい者の自立を尊重した生活支援を行うために、衣生活に関する基本的な知識・技術を習得し、利用者のニーズに応じた支援ができることを目的とします。

[授業全体の内容の概要]

高齢者・障がい者の衣生活の現状や課題を理解するとともに、衣生活を支援する上で必要となる基本的な被服の知識や管理・補修のための技術を科学的な視点から学びます。
 実験・実習を行うので、汚れても惜しくない服装で出席してください。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

1. 衣生活の支援の具体的な方策を示すことができる。
2. 衣生活の支援の方策について、その根拠を説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	衣生活の支援（衣服の機能・役割、高齢者・障がい者のための衣服について）
2	衣服選択の支援（表示の理解、繊維・布の種類と性質について）
3	衣服の洗濯・保管の支援①（家庭における衣服の洗濯と保管について）
4	衣服の洗濯・保管の支援②（実験：洗剤の働きの観察、しみぬぎ、ウール製品の手洗い）
5	衣服の補修の技術（実習：なみ縫い、まつり縫い、ボタン付け）
6	レクリエーションに役立つ技術（実習：糸を使った小物の制作）
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ（中央法規）

以下の配点で総合的に評価します。
 小テスト30%、提出作品30%、課題レポート30%、授業の取り組み方10%
 ※完成作品を提出することは、単位認定の必須条件とします。

（試験やレポートの評価基準など）

小テスト：授業内容および国家試験過去問題から出題します。
 提出作品：なみ縫いやまつり縫い、ボタン付け等の基本的な衣服の補修技術について目的を理解したうえで、正しく丁寧に作品を仕上げることを目指してください。

授 業 概 要

(科目名)		授業の種類	授業担当者		
認知症の理解Ⅱ		講義	利根川都子		教員経験
					20年
授業の回数	(単位数)※	配当学年	必修・選択	実務経験	
15回	2 単位	2年生	必修	7年	

[授業の目的・ねらい]

認知症の基礎知識を習得し、認知症の人に対する適切な全人的なケアを学ぶ

[授業全体の内容の概要]

認知症の予防
 認知症の診断と治療
 認知症の人のケアの歴史
 認知症ケアの実際
 介護者への支援

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

1. 利用者の認知症予防のケアが出来る
2. 認知症の診断と治療を理解する
3. 認知症の人のケアの歴史をふまえ、認知症ケアの実際を理解する
4. 介護職を含めた介護者への支援を理解する

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

講義・グループワーク・レポート

コマ数	内 容
1	認知症の予防 グループワーク
2	認知症の予防 発表
3	認知症の予防まとめ
4	認知症の検査・診断
5	認知症の治療
6	認知症の人の環境
7	認知症の歴史Ⅰ
8	認知症の歴史Ⅱ
9	認知症を取り巻く状況
10	パーソンセンタードケア
11	ユマニチュード
12	さまざまなアプローチ
13	家族への支援
14	介護職への支援
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

最新・介護福祉士養成講座13「認知症の理解	小テスト・レポート
	(試験やレポートの評価基準など)
	小テスト・レポート・授業態度により総合的に評価する

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
こころとからだのしくみⅢ		保倉 愛結		教員経験
				有
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15	単位	2学年		有

[授業の目的・ねらい]

人体の構造と機能、こころの仕組みについて理解し、これに基づいた根拠ある生活支援が展開・実践できるようになる。また心身の状況がどのような要因から生じているのかを客観的に理解し、残存能力・潜在能力を引き出し、尊厳ある適切な介護方法を導き出す。

[授業全体の内容の概要]

人体の構造や機能についての知識や影響する老化・疾病・障害について学ぶ。またこころとからだのしくみが関連付けてイメージしとらえられるように、映像や図を使い理解していく。演習も行う。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

介護実践・展開に必要な観察力、判断力の基盤となるこころとからだの仕組みを理解する。人体に影響する老化・疾病・障害・心の健康について理解する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	オリエンテーション・説明
2	第3章 移動に関連したこころとからだのしくみ 第1節 移動のしくみ
3	第3章 移動に関連したこころとからだのしくみ 第2節 心身の機能低下が移動に及ぼす影響
4	第3章 移動に関連したこころとからだのしくみ 第3節 変化の気づきと対応
5	第4章 身じたくに関連したこころとからだのしくみ 第1節 身じたくのしくみ
6	第4章 身じたくに関連したこころとからだのしくみ 第2節 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響
7	第4章 身じたくに関連したこころとからだのしくみ 第3節 変化の気づきと対応
8	第5章 食事に関連したこころとからだのしくみ 第1節 食事のしくみ
9	第5章 食事に関連したこころとからだのしくみ 第2節 心身の機能低下が食事に及ぼす影響
10	第5章 食事に関連したこころとからだのしくみ 第3節 変化の気づきと対応
11	第6章 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 第1節 入浴・清潔保持のしくみ
12	第6章 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 第2節 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響
13	第6章 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 第3節 変化の気づきと対応
14	科目終了試験
15	まとめ・ふりかえり

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)

授 業 概 要

(科目名)		授業の種類	授業担当者	
こころとからだのしくみⅣ			保倉 愛結	教員経験 有
授業の回数	(単位数) ※	配当学年		必修・選択
15	単位	2学年		実務経験 有

[授業の目的・ねらい]

人体の構造と機能、こころの仕組みについて理解し、これに基づいた根拠ある生活支援が展開・実践できるようになる。また心身の状況がどのような要因から生じているのかを客観的に理解し、残存能力・潜在能力を引き出し、尊厳ある適切な介護方法を導き出す。

[授業全体の内容の概要]

人体の構造や機能についての知識や影響する老化・疾病・障害について学ぶ。またこころとからだのしくみが関連付けてイメージしとらえられるように、映像や図を使い理解していく。演習も行う。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

介護実践・展開に必要な観察力、判断力の基盤となるこころとからだの仕組みを理解する。人体に影響する老化・疾病・障害・心の健康について理解する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	オリエンテーション・説明
2	第7章 排泄に関連したこころとからだのしくみ 第1節 排泄のしくみ ①・②
3	第7章 排泄に関連したこころとからだのしくみ 第1節 排泄のしくみ ③ 演習
4	第7章 排泄に関連したこころとからだのしくみ 第2節 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響
5	第7章 排泄に関連したこころとからだのしくみ 第3節 変化の気づきと対応
6	第8章 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ 第1節 休息・睡眠のしくみ ①・②
7	第8章 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ 第1節 休息・睡眠のしくみ ③ 演習
8	第8章 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ 第2節 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響
9	第8章 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ 第3節 変化の気づきと対応
10	第9章 人生の最終段階のケアに関連した心と体のしくみ 第1節 人生の最終段階に関する「死」のとらえ方
11	第9章 人生の最終段階のケアに関連した心と体のしくみ 第2節 「死」に対するこころの理解
12	第9章 人生の最終段階のケアに関連した心と体のしくみ 第3節 終末期から危篤状態、死後のからだの理解
13	第9章 人生の最終段階のケアに関連した心と体のしくみ 第4節 終末期における医療職との連携
14	科目終了試験
15	まとめ・ふりかえり

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)

授 業 概 要				
(科目名)		授業の種類	授業担当者	
福祉行財政と福祉計画		講義	中本 宣弘	教員経験 17年
授業の回数	単位数	配当学年	必修・選択	実務経験
前期;15回	30 単位	こども総合科3年	必修	4年
【授業の目的・ねらい】				
1. 社会福祉主事として必要な「福祉行財政と福祉計画」の基本的知識を修得していく。				
2. 同上の知識が社会福祉の実践場面で、どう活用され、どのような課題を抱えているか理解していく。				
3. 上記の過程を通して、保育士・社会福祉主事に求められる豊かな人格形成に努める。				
【授業全体の内容の概要】				
1. 国と地方自治体の福祉行財政とその役割を理解する。				
2. 福祉行政の組織と実施体制を理解する。				
3. 福祉計画の概念と具体的な実践方法について理解する。				
【授業終了時の達成課題(到達目標)】				
1. 保育士・社会福祉主事に必要な「福祉行財政と福祉計画」の基礎的知識を修得している。				
2. 上記の知識が社会福祉主事業務や保育・養護の実践場面においてどう活用され、どのような課題を抱えているか理解している。				
3. 以上の過程を通して、社会福祉主事に求められる豊かな人格の基盤が培われている。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
コマ数	内 容			頁
1	福祉行財政システムの視点			154-155
2	国と地方自治体の関係			156-162
3	市町村の役割			163-168
4	都道府県の役割			169-171
5	国の役割			172-175
6	福祉行財政の組織			176-178
7	福祉行政における専門職の役割			179-183
8	福祉における財源			184-187
9	福祉計画の意義と目的			190-192
10	福祉計画の種類			192-195
11	市町村地域福祉計画			198-201
12	都道府県地域支援福祉計画			201-205
13	地域福祉計画の策定			207-210
14	福祉計画の評価			211-215
15	まとめ;授業全体の総括。			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]		
1. 社会福祉学習双書第8巻「地域福祉と包括的支援体制」(全国社会福祉協議会社会福祉学習双書編集委員会著・全国社会福祉協議会刊)		1. 小テスト ;70%		
2. 社会福祉学習双書「学びを深める福祉キーワード集」(全国社会福祉協議会社会福祉学習双書編集委員会著・全国社会福祉協議会刊)		2. 授業態度・意欲;30% 【合計;100点満点】		
3. 「社会福祉小六法」(ミネルヴァ書房)		(試験やレポートの標価基準など)		
		1. 小テスト ;5点×14回=70点		
		2. 授業態度 ;2点×15回=30点		
		A;80点以上 B;70点以上 C;60点以上		
		D;60点未満(不合格)		

授 業 概 要				
(科目名)		授業の種類	授業担当者	
社会福祉施設経営論①		講義	中本 宣弘	教員経験 18年
授業の回数	単位数	配当学年	必修・選択	実務経験
前期;15回	30 単位	介護福祉科 2年	必修	21年
【授業の目的・ねらい】				
1. 社会福祉主事に必要な「社会福祉施設経営」(福祉サービス提供組織の経営)の基礎的知識を修得していく。				
2. 同上の知識が福祉の実践場面に於いてどう活用され、どのような課題を抱えているか理解していく。				
3. 上記の過程を通して、社会福祉主事に求められる豊かな人格形成に努める。				
【授業全体の内容の概要】				
1.社会福祉法人・施設の基礎知識について理解する。				
2.社会福祉施設の経営・運営・管理に関する基礎理論について理解する。				
3.社会福祉施設の経営・運営・管理の実際について理解する。				
【授業終了時の達成課題(到達目標)】				
1. 社会福祉主事に必要な「福祉サービスの経営・運営管理」の基礎的知識を修得している。				
2. 上記の知識が福祉の実践場面に於いてどう活用され、どの様な課題を抱えているか理解している。				
3. 以上の過程を通して、社会福祉主事・介護福祉士に求められる豊かな人格の基盤が培われている。				
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法				
コマ数	内 容			
1	福祉サービスの特徴			6-14
2	福祉サービスの理念			15-19
3	地域共生社会と組織間連携・協働			60-68
4	地域連携と地域マネジメント及び地域包括ケアシステム			68-73
5	社会福祉法人			82-93
6	特定非営利活動法人			94-98
7	医療法人・一般社団法人・協同組合等			99-109
8	福祉サービス提供組織の経営理論			112-123
9	組織における意思決定			123-125
10	組織における問題解決の思考と手順			126-129
11	モチベーションの向上と組織の活性化			129-133
12	福祉サービス提供組織と集団力学			133-137
13	チームアプローチ			137-142
14	福祉サービス提供組織の事業とリーダーシップ			142-146
15	まとめ			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]		
1. 社会福祉学習双書第2巻「福祉サービスの組織と経営」(全国社会福祉協議会社会福祉学習双書編集委員会著・全国社会福祉協議会刊)		1. 小テスト ;70%		
2. 社会福祉学習双書「学びを深める福祉キーワード集」(全国社会福祉協議会社会福祉学習双書編集委員会編・全国社会福祉協議会刊)		2. 授業態度・意欲;30% 【合計;100点満点】		
3. 「社会福祉小六法」(ミネルヴァ書房)		(試験やレポートの標価基準など)		
		1. 小テスト; 5点×14回=70点		
		2. 授業態度; 2点×15回=30点		
		A;80点以上 B;70点以上 C;60点以上		
		D;60点未満(不合格)		

授 業 概 要

(科目名)		授業の種類	授業担当者	
児童福祉ゼミナール【前期】		講義・演習	中本 宣弘	教員歴 17年
授業の回数	単位数	配当学年	必修・選択	実務経験
前期;15回	30 単位	こども総合科3年	必修	28年
[授業の目的・ねらい]				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 設定課題の文献調査に基づく、テーマ設定・研究動機・目的・研究方法を確定する中で、論文の構成を理解し、卒業論文への動機づけをしっかりとしたものにする。 2. 設定課題の文献調査・実地調査を通して、課題を見つめる視点、洞察力を高めていく。 3. この過程の中で、児童福祉の実践場面に於いて、どのような課題があるかを理解し、どのように活用していくかを理解し、保育士に求められる豊かな知識取得と人格形成に努める。 				
[授業全体の内容の概要]				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 設定課題に関する定義・現状の理解。 2. 設定課題に関する特性とその対応についての理解。 3. 実地調査による仮説証明のための調査表作成。 				
[授業終了時の達成課題(到達目標)]				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 設定課題に関する定義・現状について理解している。 2. 設定課題に関する特性とその対応について理解している。 3. 仮説証明のための社会調査の有効性を理解し、課題に関する実践的な視点、洞察力が高められている。 				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
コマ数	内 容			
1	序章「研究動機・目的・研究主旨・研究方法・仮設」			
2	第1章:「設定テーマに関する定義・現状」			
3	第2章:「設定テーマに関わる特性」①・文献調査			
4	第2章:「設定テーマに関わる特性」②・文献調査			
5	第2章:「設定テーマに関わる特性」③・文献調査			
6	第2章:「設定テーマに関わる特性」④・文献調査まとめ			
7	第2章:「設定テーマに関わる対応」①・文献調査			
8	第2章:「設定テーマに関わる対応」②・文献調査			
9	第2章:「設定テーマに関わる対応」③・文献調査			
10	第2章:「設定テーマに関わる対応」④・文献調査まとめ			
11	第3章:「設定テーマに関わる実地調査表」作成①			
12	第3章:「設定テーマに関わる実地調査表」作成②			
13	第3章:「第3章:「設定テーマに関わる実地調査表」作成②表」精査・調査表完成			
14	第3章「第3章:「設定テーマに関わる実地調査」依頼・送付			
15	第3章「第3章:「設定テーマに関わる実地調査」実施			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「社会的養護」(ミネルヴァ書房) 2. 「社会福祉小六法」(ミネルヴァ書房) 3. 「社会福祉用語辞典」(ミネルヴァ書房) 4. 各自の参考文献 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文評価:70% 2. 授業態度:30% (100点満点) 		
		(試験やレポートの標価基準など)		
		<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文評価:70点 2. 授業態度:2点×15回=30点 <p>A:80点以上 B:70点以上 C:60点以上 D:60点未満(不合格)</p>		

授 業 概 要

(科目名)		授業の種類	授業担当者		
日本語補講			久保田 真智子		教員経験 6
授業の回数	(単位数) ※	担当学年	必修・選択	実務経験	
30	2 単位	1, 2年	選択	6	

[授業の目的・ねらい]

- N2合格 (日本語能力試験)
- 国家試験合格のための日本語理解力の向上

[授業全体の内容の概要]

- 文法(N2)、語彙、会話、漢字の4本柱を中心に進捗。
- 日本語能力試験前は、対策としてドリル等の問題をこなしていく。

[授業終了時の達成課題 (到達目標)]

- N2合格
- 国家試験合格

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	新完全マスター文法N2 / 日本語総まとめN2語彙 / 日本語生中継(会話)
2	介護・看護の漢字とことば
3	"
4	"
5	"
6	"
7	"
8	"
9	"
10	"
11	"
12	"
13	"
14	"
15	"

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

授業内に実施する数回のミニテスト

(試験やレポートの評価基準など)

生活支援技術ⅠV (障害)

授業の種類		授業担当者		
自立した家事		講義・演習	黒木久子	
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	教員経験
5	単位	2年	必修	実務経験

[授業の目的・ねらい]
 ・利用者有する能力に応じた自立した日常生活学習を可能にする支援を目的とする
 ・個人から社会的な生活支援のあり方を学ぶ
 [授業全体の内容の概要]
 ・実際の場面を想定し(学習に積極的参加し相互に高め合い演習的)

[授業修了時の達成課題 (到達目標)]
 ・利用者へ身体面・心理面・環境を理解し、日常生活の障害を取り除くことと把握し
 居住空間を創出する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	訪問介護について理解を深める。
2	介護保険と自立支援。
3	事例 一人暮らしの高齢者 ①
4	〃
5	事例 家族介護 ②
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
中央法規出版 最新介護福祉士養成講座	(試験やレポートの評価基準など)
	試験 80% レポート 20%

授 業 概 要

(科目名)		授業の種類		授業担当者	
法学		講義		生地裕	
				教員経験 35年	
授業の回数	(単位数) ※	配当学年		必修・選択	実務経験
15	2 単位	11ヶ月 2年		必修	

[授業の目的・ねらい]

社会生活における法の作用や役割を理解し、特に社会福祉に関する法規（憲法・民法・行政法など）の基礎を学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

憲法・民法・行政法などの基礎について、具体的な事例をあげて説明を行う。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

憲法・民法・行政法などの基礎を理解し、実際に社会福祉の仕事に就いた場合に役立つ知識を身につける。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	内 容
1	社会生活と法（1）
2	社会生活と法（2）
3	憲法の基礎（1） 基本原理・統治機構
4	憲法の基礎（2） 基本的人権（高齢者の人権・障がい者の人権・子どもの人権）
5	憲法の基礎（3） 基本的人権（女性の人権・外国人の人権・性的マイノリティの人権）
6	福祉・医療現場の事故における法的責任（1） 刑事責任：刑法・刑事訴訟法の基礎
7	福祉・医療現場の事故における法的責任（2） 民事責任：民法・民事訴訟法の基礎
8	福祉・医療現場の事故における法的責任（3） 民事責任：民法・民事訴訟法の基礎
9	福祉・医療現場の事故における法的責任（4） 国家賠償責任：行政法（国家賠償法）の基礎
10	福祉・医療現場の事故における法的責任（5） 福祉・医療現場におけるケーススタディ
11	裁判員制度（1） 刑事裁判の基礎・裁判員制度と国民の司法参加
12	裁判員制度（2） 刑事裁判における被害者・加害者の人権
13	裁判員制度（3） 裁判員制度の問題点
14	まとめ
15	終末試験

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

『模範小六法』三省堂

終末試験を中心に小テスト・出席状況を加味して総合的に評価を行う。

(試験やレポートの評価基準など)

試験の採点基準については、授業で具体的に説明を行う。